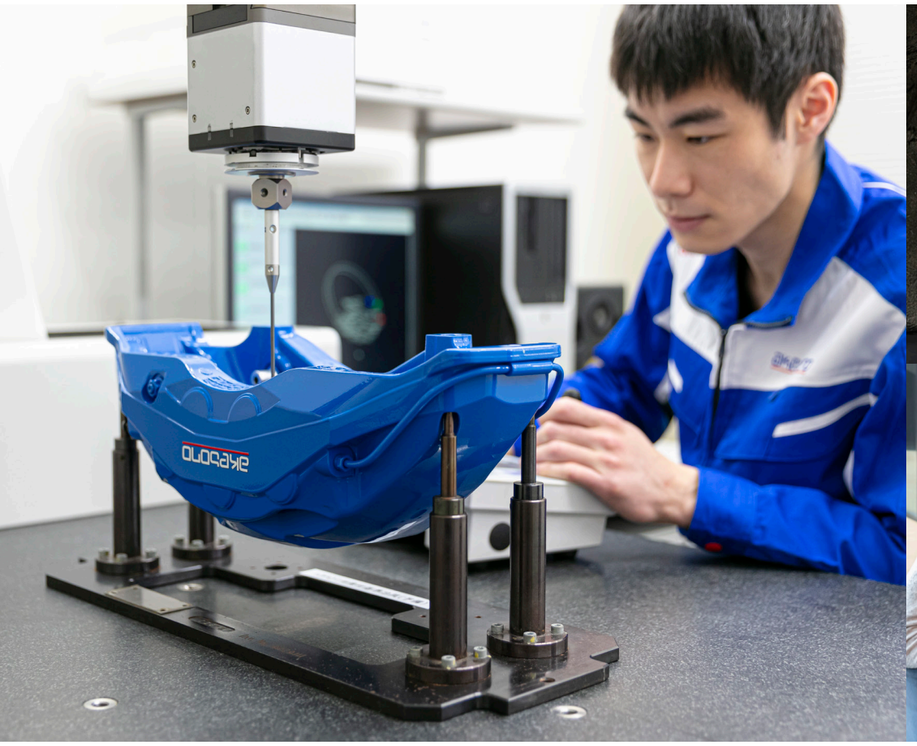
曙ブレーキグループ 会社案内



総合ブレーキメーカーとしての理念、私たちはそこから未来に続く第一歩を踏み出します。

社是『誠和魂』

「以誠接人」　「以和計事」　「以魂貫志」

（誠をもって人に接し　和をもって事を計り　魂をもって志を貫く）

誠実に人と接すること、人との和をもって物事を進めること、魂をもって志したことをやり遂げること。その大切さを説いたこの社是は、1964年に制定され、同年には現在も続く社内報「誠和魂」（せいわこん）も創刊されました。これにより、社是は今も社員に広く浸透しています。

理念『曙の理念』

私達は、「摩擦と振動、その制御と解析」により、
ひとつひとつのいのちを守り、育み、支え続けて行きます。

akebonoは、グループ全体の求心となる理念のもと、akebonoが進むべき道を示すことが重要と考え、1999年に『曙の理念』を制定しました。
「摩擦と振動、その制御と解析」は、akebonoのコア技術です。「制御」が「解析」の前にあるのは、解析する前に、まず、困っているお客様の問題解決に取り組む、そして、その解析も怠らないというakebonoの姿勢を表しています。
守っているのは人のいのちだけではありません。「ひとつひとつのいのち」には、人間だけでなく、草木に至るまで、地球上のあらゆる生物、引いては地球環境そのものもいのちのひとつとみなし、それらを守り、育み続けていくために、健全な経営のもとで企業価値を創出していくことを定めています。
私たちは、「曙の理念」を実現することで、持続可能な社会の発展に貢献していきます。

いま、すべての社員が一丸となって皆様の声にお応えする。
それが私たちの使命です。

自動車業界が大きな変革の時代を迎える中、曙ブレーキグループ（akebono）も変革のときを迎えています。加速する自動車の電動化や自動運転化にともない、ブレーキの分野においても、新顧客・新製品・新市場が生まれています。これらの変化に対応していくための礎となるのは、創業以来90年以上に及ぶ歴史の中で、長年培ってきた技術であり、それを受け継ぎ、発展させてきた社員一人ひとりです。

akebonoは、2019年10月に新経営体制を発足させ、事業再生計画の下、事業構造改革の各施策に取り組んでいます。コロナ禍の厳しい状況ではありますが、拠点の再編や生産最適化といった各施策を、事業再生計画に沿って着実に実行しています。さらに将来の持続的な成長に向けたビジネスの基盤強化も着々と進めています。

事業再生計画を達成し、その先の成長を成し遂げるためには、社員一人ひとりの力が必要です。そのための指針として、私は「5つの目指す姿」を掲げました。それは、「①徹底的にお客様第一であること」「②受身ではなく提案型、気概と執念を持ち、やり遂げること」「③コスト意識を持つこと」「④5ゲン主義（現地 現物 現認 原理 原則）であること」「⑤頑張りや成果を出す社員に報いること」の5つです。

akebonoの培ってきた技術を活かし、社員一人ひとりが力を合わせれば、事業再生計画は必ず達成できると信じています。そのための指針が「5つの目指す姿」であり、それはそのまま、当社の強みを表す言葉でなければならないと思っています。

さらに、モノづくりの企業として、世界の安全・安心に貢献する、それもまた我々の使命だと考えています。長年、サステナビリティへの取り組みを進めてきており、現在はSDGsに取り組んでいます。製造工程におけるCO_2排出量を半減させた摩擦材の開発や、燃費、さらには電動車の電費を抑える、引きずり抵抗を抑えたブレーキの開発など、環境負荷低減に向けた取り組みも実施しています。こうしたakebonoの技術は、これからの社会に大きく貢献するものであると確信しています。

これらの取り組みを進める中、2021年2月には、一部製品の定期検査報告における不適切行為があったことを公表しました。対象製品の性能に問題はないものの、お客様とお約束したことを守っていなかったことは重大な問題であり、本件により、お客様をはじめとした関係者の皆様の信頼を大きく損なうこととなりました。今後、失われた信頼を回復すべく、私をはじめとした役員が先頭に立ち、コンプライアンス及びガバナンスの強化に全力で取り組んでまいります。

これらの問題を受け、akebonoは、2021年度の会社方針を「1．全社一丸となった風土改革・品質コンプライアンス対応の着実な取り組み並びに企業としての基盤強化」「2．環境変化に応じた施策見直しと実践による事業再生計画の達成」「3．将来の持続的成長に向けたビジネス獲得と競争力向上」と定めました。これらの方針を実現することにより、皆様の信頼回復と事業再生計画の達成につなげ、さらにはその先の将来の成長を成し遂げるべく、社員一丸となって真摯に取り組んでまいります。

皆様のご支援に心より感謝申し上げますとともに、今後とも皆様のご理解・ご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

曙ブレーキ工業株式会社
代表取締役社長 CEO

宮地 康弘

事業再生計画

（2021年4月1日現在）

曙ブレーキグループは、産業競争力強化法に基づく特定認証紛争解決手続（事業再生ADR手続）の中で
全てのお取引金融機関からご同意いただいた事業再生計画に沿って、事業再構築のための各施策に取り組んでおります。

**事業再生計画では、全ての拠点・事業部門において、
聖域なき構造改革を実行し、黒字化の実現を目指す**

事業再生計画を達成し、曙ブレーキグループのさらなる成長につなげる

■ 事業再生計画期間

**2019年 9月18日（事業再生計画の成立日）～
2024年 6月30日（事業再生計画の計画期間の終了日）**

■ 事業再構築のための施策（骨子）

①経営体制の強化　②事業構造改革　③財務体質健全化

■ 事業構造改革の各地域における施策とその進捗

＜日本＞

計画	生産性改善、合理化及び経費削減等のコスト削減、工場の縮小及び低採算製品・不採算取引の改善、並びに設備投資、開発費、親子ローン等の支出項目について、厳格な承認プロセスの再構築

○主な実施施策とその進捗

施策	進捗	
本社間接系従業員の早期退職措置	✓実施済	・募集期間：2020年2月24日～2020年3月23日 ・実施期間中の自己都合退職者を含めると、計画は概ね達成。
国内生産拠点の早期退職措置	✓実施済	・募集期間：2020年12月21日～2021年2月12日 ・募集人数を上回る応募があり、計画は達成。
国内4工場の縮小	実施中	・当初計画の山陽製造の段階的な縮小・閉鎖及び福島製造の縮小を国内4工場の縮小に変更。 ・工場の生産最適化に向けた改善活動を鋭意実施中。 ・国内工場から海外工場への生産移管については完成車メーカーとの調整により多少進捗の遅れがあるものの、国内工場間の生産移管は計画より予定を早めて進行中。
連結子会社との吸収合併	✓実施済	・事業再構築に向けた構造改革の一環として、開発体制をさらに集中・強化し、競争力を高めることを目的として、連結子会社である（株）曙ブレーキ中央技術研究所、（株）曙アドバンスドエンジニアリングを吸収合併。 ・連結子会社で培ってきた基礎研究、先端技術の研究及びその開発、事業のノウハウを受け継ぎ、当社で一体的な事業運営を行うことによる相乗効果により、全体の開発力強化につなげる。
日本橋本店の売却	✓実施済	・2020年3月に完了。

＜北米＞

計画	工場の閉鎖及び売却、資金管理面での承認プロセスの遵守並びにその他コスト改善

○主な実施施策とその進捗

施策	進捗	
生産2拠点の閉鎖	✓実施済	・テネシー州の工場は1か月予定を早め2020年7月末に、サウスカロライナ州の工場は計画どおり同年9月末までに閉鎖し、2工場の土地・建物などの売却処理も完了。

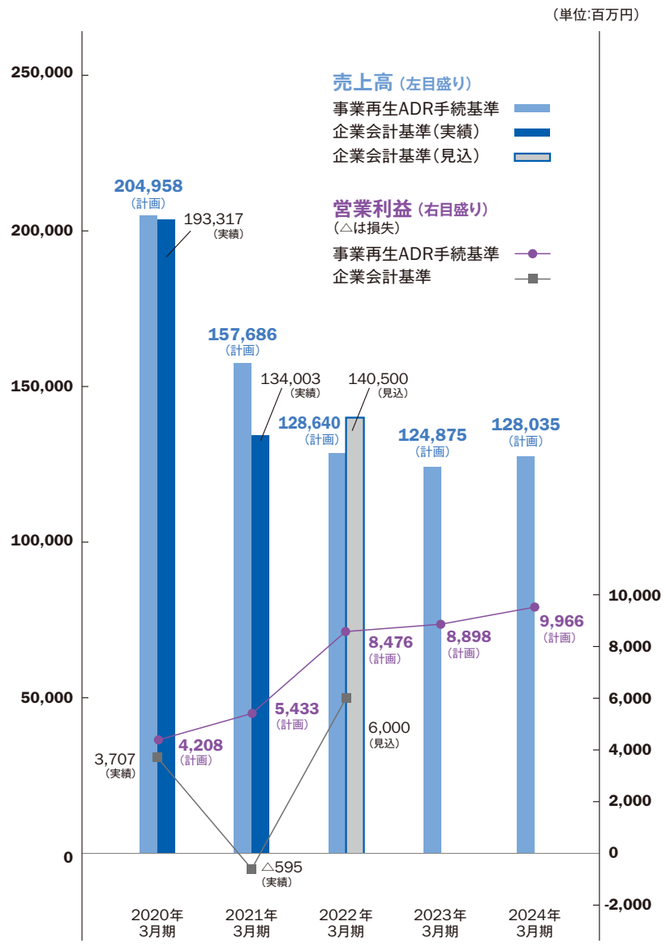
＜欧州＞

計画	事業及び拠点再編を含む構造改革

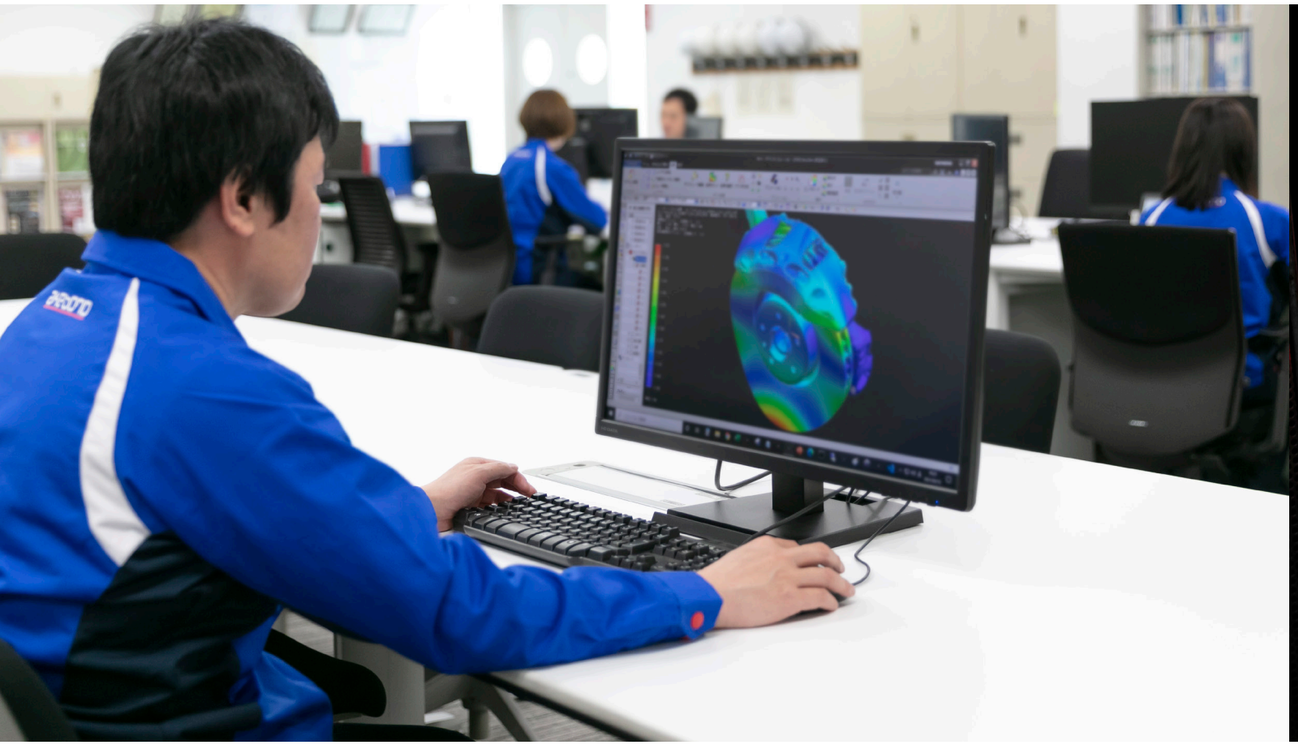
○主な実施施策とその進捗

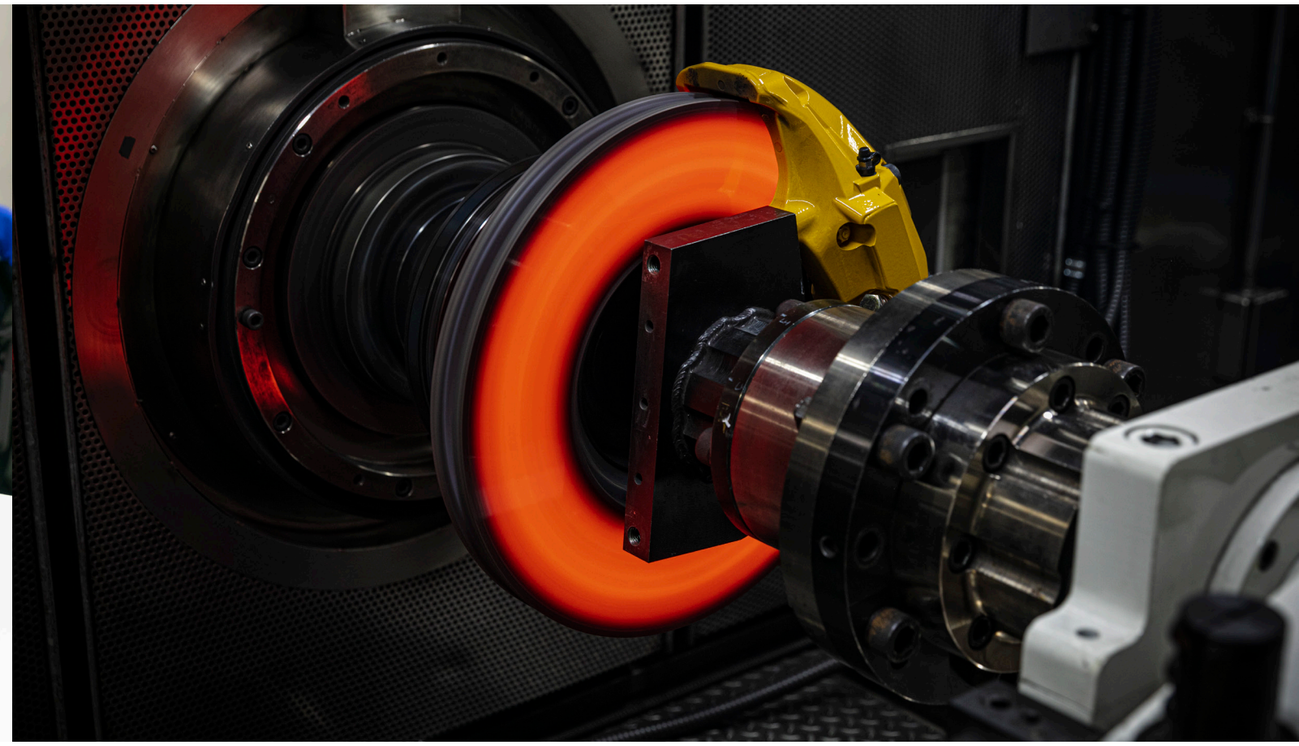
施策	進捗	
フランスの拠点の閉鎖	実施中	・フランスの拠点は、当初計画通りの提携または売却が実現できなかったため、既存製品の生産移管等が完了した後、閉鎖の上、解散することを決定。 ・スロバキアの拠点は、当初計画では「当社に損失が生じない形での提携又は売却の実施。これが実現できない場合は、新規受注及び新規設備投資・開発を停止し、既存製品の生産終了まで生産継続し、閉鎖」としていたものの、事業の黒字化が実現されたこと及び将来の新規受注可能性が高いことなどから、同社の経済性が当初計画を上回ることが予想されるため、存続を決定。 ・ドイツの拠点についても、欧州顧客との窓口機能及び研究開発拠点として新規受注獲得に貢献でき、スロバキアの存続にとって必須であるとの認識から、存続を決定。
英国の拠点の閉鎖	✓実施済	・閉鎖を完了。

■ 事業再生計画における経営数値計画



※事業再生計画における経営数値は、事業再生ADR手続基準に定める資産評価に基づくものであり、企業会計基準における資産評価値とは異なるため、企業会計基準の実績及び見込とは数値に差異が生じる点にご留意ください。





お客様のご要望にお応えするために、私たちは開発から製造まで最善を追求し続けています。

akebonoは「お客様ニーズ」と「社会ニーズ」に応えていきます。

akebonoは独立系ブレーキ専業メーカーとして、世界中のお客様に安全と安心を提供しています。コンパクトカー向けからハイパフォーマンスカー向けまで、さまざまなカテゴリーの製品を開発・製造。多様な分野への展開とともに、次世代技術の開発に注力することで、安全・安心な社会づくりに寄与していきます。

200km/hを超える高速走行から急ブレーキをかけ、ブレーキの性能を評価・検証

開発・実験設備

高性能ダイナモメーターの導入により、過酷な条件下での走行をシミュレーションすることが可能となりました。ダイナモでは、速度のみならず、温度や風速などの走行環境を変えることができ、お客様の様々な要求に応える環境を再現することができます。回転しているローターにかかるブレーキパッドの面圧を解析することも可能となり、ブレーキパッドの偏摩耗を防ぐなど、ブレーキの制動力に直結する解析技術の向上に大きく貢献しています。

独立系総合ブレーキメーカーakebonoのラインナップ

akebonoは総合ブレーキメーカーとして、ディスクブレーキパッドやドラムブレーキライニングなどの摩擦材、
ディスクブレーキ、ドラムブレーキなどの機構部品を開発、製造しています。

自動車用製品

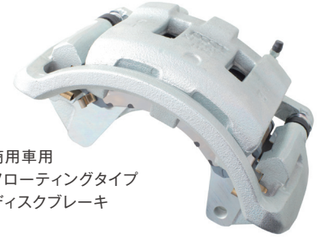
高性能量販車用
6ポットブレーキキャリパー

高性能量販車用
10ポットブレーキキャリパー

高性能車用
10ポットブレーキキャリパー

乗用車用
フローティングタイプ
ディスクブレーキ

オポーズドタイプ
ディスクブレーキ



商用車用
フローティングタイプ
ディスクブレーキ

耐久レース用
ブレーキキャリパー

耐久レース用
ブレーキキャリパー

乗用車用
ドラムブレーキ

商用車用
ドラムブレーキ

ディスクブレーキパッド

ドラムブレーキ
ライニング

高性能量販車用
6ポットブレーキパッド

高性能量販車用
10ポットブレーキパッド

耐久レース用
ブレーキパッド

独立系総合ブレーキメーカーakebonoのラインナップ

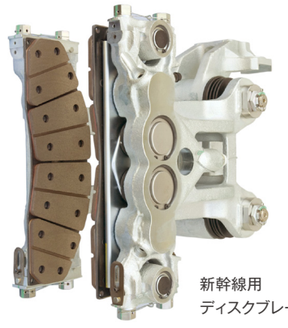
akebonoは、自動二輪車、鉄道車両、産業機械など、幅広い分野のブレーキ製品を製造しています。
さらに、ブレーキの振動解析技術を活かしたセンサー製品も開発・製造しています。

自動二輪車用製品

自動二輪車用
ブレーキキャリパー

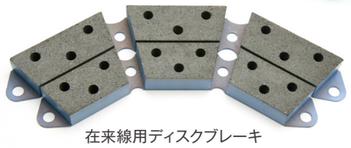
自動二輪車用
マスターシリンダー

鉄道車両用製品



新幹線用
ディスクブレーキ

新幹線用等面圧
ディスクブレーキライニング



在来線用ディスクブレーキ
ライニング

地下鉄用
ディスクブレーキライニング

鉄道車両用制輪子

産業機械用製品

フォークリフト用
ドラムブレーキ

カーエアコン用
クラッチフェーシング

ラフテレーンクレーン用
ディスクブレーキ

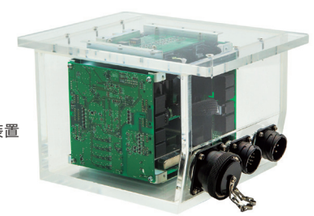
エレベーター用ブレーキシュー

補修品

ブレーキパッド
（アフターマーケット製品）

センサー製品

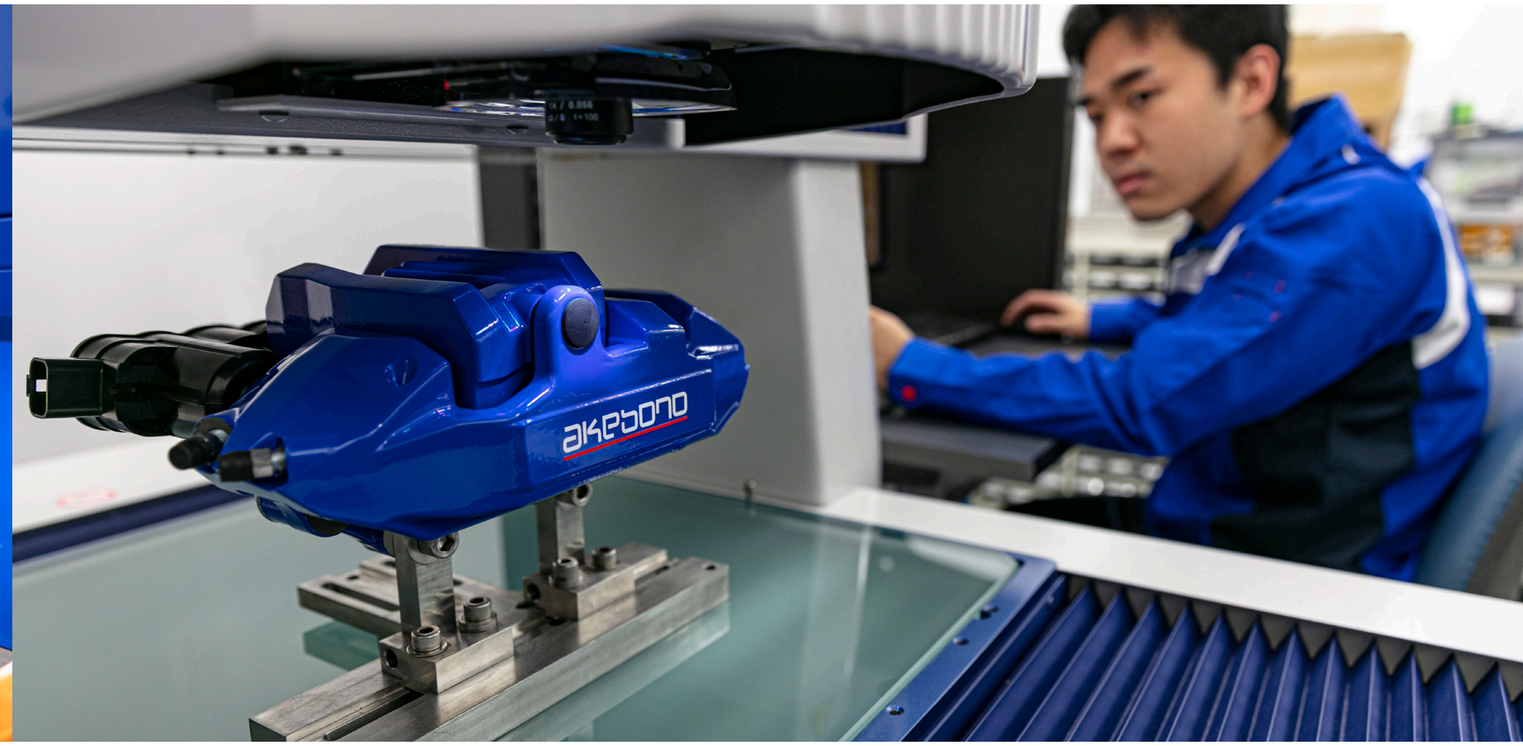
センサークラスター



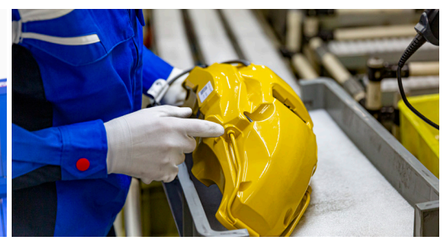
車両挙動監視装置
（鉄道車両用）

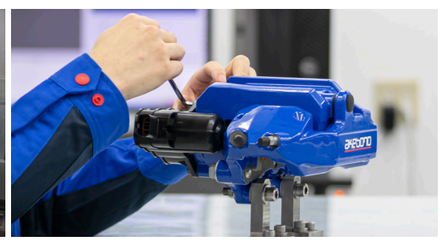
脱線検知装置
（鉄道車両用）

ジューテンダーII
（コンクリート充填・締固め振動検知システム）



求められることの、さらにその先へ向かう。チャレンジすることこそが私たちの提案です。





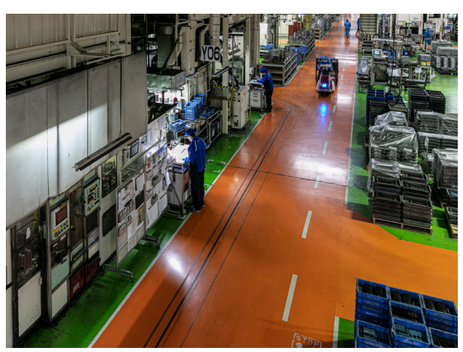
理想を実現するために、さらに過酷なフィールドを求めて。

akebonoはブレーキのエキスパートを目指し、2002年にモータースポーツへの挑戦をスタートさせました。2007年にはF1へのブレーキ供給も開始。F1をはじめとしたモータースポーツへの挑戦は、akebonoの技術力向上とエンジニアの育成に大きく寄与してきました。F1への挑戦が高性能車向けブレーキの開発や採用にもつながり、市販の量産車の技術レベル向上にもつながっています。

常に根底に流れるチャレンジ精神とともに次世代へ。

加速する自動車の電動化や自動運転化に対応すべく、電動ブレーキの開発に注力しています。akebonoは、1つのモーター出力を2つのピストンに伝達できる独自構造の中･小型トラック用電動パーキングブレーキを開発しました。また、高性能車用ブレーキの開発で培ってきた技術を活かし、スポーツタイプの電気自動車用に、オポーズドタイプ電動パーキングブレーキキャリパーも開発。2021年から量産を開始します。

生産に関わるすべてのシーンに、さらに向上するきっかけがあると私たちは考えています。



安全と品質を担保し生産性を向上させ「原価低減」「人財育成」へ。

akebonoでは、2019年より、各生産拠点でSQDC向上活動への取り組みをスタートさせました。SQDC向上活動とは、安全と品質を確保した上で、生産性を向上させ、「原価低減」「生産合理化」「人財育成」につなげる活動です。各生産拠点で、それぞれ「S（Safety:安全）」「Q（Quality:品質）」「D（Delivery:納期）」「C（Cost:コスト）」担当リーダーを定め、各自の目標を宣言し、拠点の社員全員参加で活動に取り組んでいます。

真摯に向き合い本質的な解決を目指す「5ゲン主義」。

2019年に発足した新体制の下、akebonoは、5ゲン主義（現地 現物 現認 原理 原則）の実践を目指しています。何か問題があれば「現地」「現物」「現認」で確認し、問題を解決しなければならない。問題と真摯に向き合い本質的な解決を目指す。次に何が起こるか予測するために「原理」を追及する。社員一人ひとりが「原則」をしっかり守って行動する。akebonoは、全ての業務において5ゲン主義を実践していきます。

さらなる品質の向上や次世代への積極的な対応など、私たちは常にその先を目指していきます。

環境負荷低減に向けた積極的な取り組みを実施。

akebonoでは、2016年より摩耗粉測定技術に取り組み始め、摩耗粉をほぼ全て捕集する技術、摩耗粉の量、粒子の大きさの分布測定技術の開発を完了しています。2020年には日本自動車技術会規格（JASO）によって行われた測定技術の標準化活動を先導しました。今後も、この技術を活用した摩擦材開発を進め、環境負荷低減に積極的に取り組んでいきます。

企業としての社会的責任に正面から取り組む。

akebonoは、次世代製品開発として、製造過程でのCO_2発生量を従来比で50%削減できるブレーキパッドを開発しました。製造時間を50%以下に短縮し、さらには、ブレーキを作動させたときに発生するブレーキ摩耗粉の量も低減できるブレーキパッドです。今後は製品化に向けさらなる取り組みを進めていきます。

会社が一人ひとりを支える。一人ひとりが会社を支える。モノづくりは人づくりです。

取り組みの詳細に関しては、こちらをご確認ください。

人事制度 WEB

社員の状況 WEB

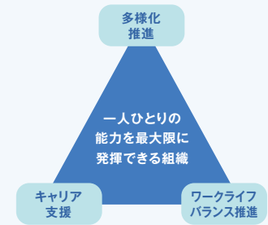
健康経営 WEB

人事基本方針

「会社を成功に導く最も重要なファクターは『人財（社員）』である」という考えのもと、「社員一人ひとりに機会を提供し、会社の成功を共に分かち合える社員を支え続けていくこと」を基本方針として、「個の確立」と「相互の尊敬と信頼」を基盤に、グローバルでの長期人事政策の構築を目指しています。

ダイバーシティ・マネジメント

akebonoのダイバーシティ・マネジメントは、『多様化推進』、『キャリア支援』、『ワークライフバランス推進』を3つの基本テーマとして、社員一人ひとりの能力を最大限に発揮できる組織づくりを行い、新たな価値創造と企業価値の向上に結びつけることを目標にしています。



女性活躍推進「えるぼし認定」を取得

akebonoは女性を含むすべての社員がいきいきと働ける企業を目指し取り組みを続けており、2016年には、「えるぼし認定※（3段階目）」を受けました。えるぼし認定制度は、女性活躍推進法に基づいて行動計画の策定と策定内容の届出を行った事業主のうち、女性の活躍推進に関する取り組みの実施状況などが優良な事業主が、都道府県労働局への申請により、厚生労働大臣の認定を受けることができる制度です。

※女性活躍推進法に基づく「基準適合一般事業主」認定の公式愛称

次世代育成支援認定マーク「くるみん」3回目の取得

akebonoは、2016年に埼玉労働局から「次世代育成支援対策推進法」に基づく「子育てサポート企業」として認定を受け、次世代育成支援認定マーク「くるみん」マークを取得しました。2007年11月、2013年6月にも認定を受けており、2016年で3回目の「くるみん」マーク取得となります。

健康経営

akebonoは、「働き方改革」「心身両面の健康促進」「健康意識向上」を3本柱に健康経営推進に取り組んでいます。全社一体となった健康づくり活動により、2021年には、「健康経営優良法人2021（大規模法人部門）」の認定を受けました。これは、地域の健康課題に即した取り組みや日本健康会議が進める健康増進の取り組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している法人を顕彰する制度で、今回は4年連続4回目の認定となります。

事業所内保育所「あけぼの保育園」（Ai-Kids）

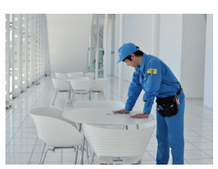
2018年に開園した「あけぼの保育園」は、「働き方改革」の一環及び社員の福利厚生の充実、また地域社会への貢献を目的として設立されました。

研修センター「Ai-Village」

研修センター「Ai-Village」は、Ai-City（本社）に2012年に建設されました。グローバル人財の創出を目的として、様々な研修が行われています。現在は、集合研修とオンライン研修の両輪で、研修のさらなる充実を実現しています。

障がい者の雇用（あけぼの123）

akebonoの特例子会社、あけぼの123（株）では、「社員に人として自立してもらう」という理念のもと、障がい者が仕事を通じて成長できる職場づくりに取り組んでいます。障がい者の雇用やその能力を活かした職場づくりを積極的に取り組んでいることが評価され、2007年4月以来「埼玉県障害者雇用優良事業所」として4期連続認証されています。



Global Operations

欧州

ブレーキパッド

高性能ブレーキ

1. Akebono Europe S.A.S Arras Plant
   - ブレーキパッド
2. Akebono Europe GmbH
3. Akebono Brake Slovakia s.r.o.
   - 高性能ブレーキ

北米

ディスクブレーキ

ドラムブレーキ

ブレーキパッド

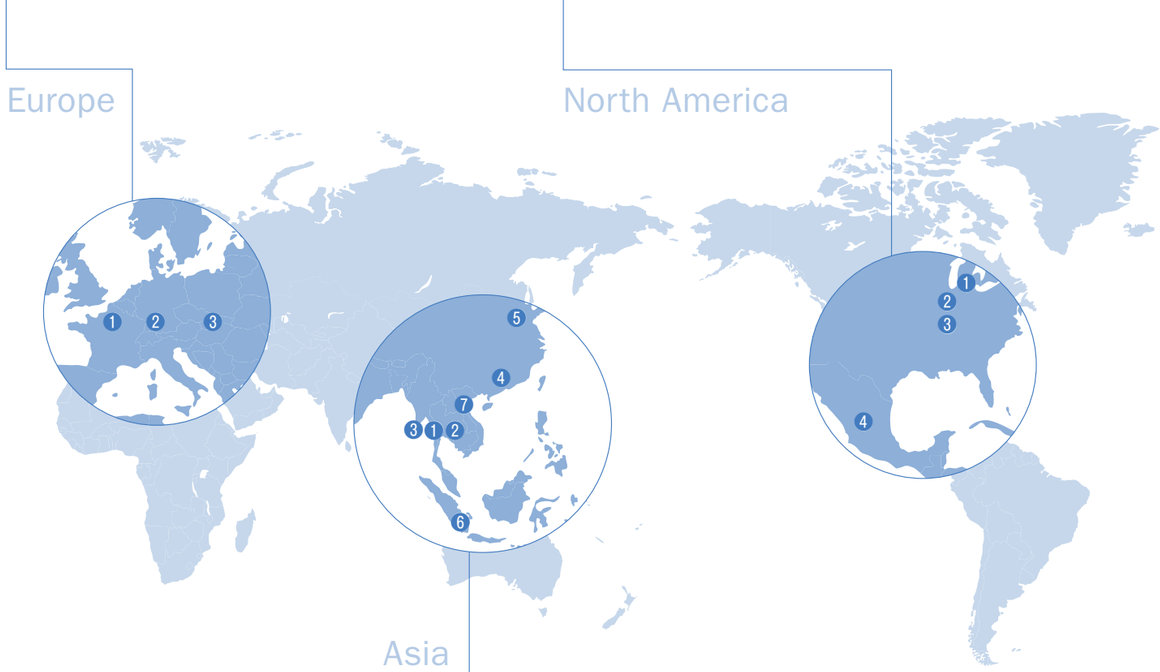
1. Akebono Brake Corporation（北米本社）
1. Akebono Engineering Center（研究開発）
2. Akebono Brake Corporation (Elizabethtown)
   （北米本社機能、販売、マーケティング）
2. Akebono Brake, Elizabethtown Plant
   - ディスクブレーキ
   - ドラムブレーキ
3. Akebono Brake, Glasgow Plant
   - ディスクブレーキ
   - ブレーキパッド
4. Akebono Brake Mexico S.A. de C.V.
   - ディスクブレーキ
   - ドラムブレーキ

曙ブレーキ工業（株）

鋳物

高性能ブレーキ

1. 本店（グローバル本社）
2. Ai-City（本社）
3. 中部オフィス
4. 札幌営業所
5. 仙台営業所
2. 関東営業所
1. 首都圏営業所
6. 大阪営業所
7. 広島営業所
8. 福岡営業所
9. 館林鋳造所
   - 鋳物
2. HP製造部
   - 高性能ブレーキ
10. Ai-Ring（テストコース）
2. Ai-Village（グローバル研修センター）
2. Ai-Museum（ブレーキ博物館）



アジア

ディスクブレーキ

ドラムブレーキ

ブレーキパッド

ブレーキライニング

二輪ディスクブレーキ

二輪マスターシリンダー

鋳物

1. Akebono Brake (Thailand) Co., Ltd.
   - ディスクブレーキ
   - ブレーキパッド
2. A&M Casting (Thailand) Co., Ltd.
   - 鋳物
3. Akebono Cooperation (Thailand) Co., Ltd
4. 広州曙光制動器有限公司 Akebono Corporation (Guangzhou)
   - ディスクブレーキ
   - ドラムブレーキ
5. 曙光制動器（蘇州）有限公司 Akebono Corporation (Suzhou)
   - ブレーキパッド
6. PT. Akebono Brake Astra Indonesia
   - ディスクブレーキ
   - ドラムブレーキ
   - ブレーキパッド
   - ブレーキライニング
   - 二輪ディスクブレーキ
   - 二輪マスターシリンダー
7. Akebono Brake Astra Vietnam Co., Ltd.
   - 二輪ディスクブレーキ
   - 二輪マスターシリンダー

日本

ディスクブレーキ

ドラムブレーキ

ブレーキパッド

ブレーキライニング

新幹線ディスクブレーキ

クラッチフェーシング

11. 曙ブレーキ 山形製造（株）
    - ブレーキパッド
    - クラッチフェーシング
12. 曙ブレーキ 福島製造（株）
    - ブレーキライニング
    - ブレーキパッド
    - クラッチフェーシング
13. 曙ブレーキ 岩槻製造（株）
    - ディスクブレーキ
    - ドラムブレーキ
    - 新幹線ディスクブレーキ
14. 曙ブレーキ 山陽製造（株）
    - ドラムブレーキ
    - ホイールシリンダー
13. （株）アロックス
2. あけぼの123（株）（特例子会社）
2. （株）アケボノキッズケア（保育所）

会社概要

商号	曙ブレーキ工業株式会社
本店（グローバル本社）	〒103-8534 東京都中央区日本橋小網町19番5号 03-3668-5171（代表） MAP
Ai-City（本社）	〒348-8508 埼玉県羽生市東5丁目4番地71号 048-560-1500（大代表） MAP
創業	1929年（昭和4年）1月27日
設立	1936年（昭和11年）1月25日
資本金	199億円（2021年3月末現在）
売上高（連結）	1,340億円（2020年度）
従業員数（連結）	6,299名（2021年3月末現在）

役員一覧

2020年9月1日現在

取締役

代表取締役
宮地 康弘

取締役
栗波 孝昌

社外取締役
丹治 宏彰

社外取締役
廣本 裕一

社外取締役
三代 洋右

監査役

常勤監査役
篠田 達也

常勤監査役
池上 洋

社外監査役
高橋 均

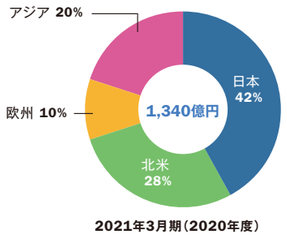
社外監査役
板垣 雄士

執行役員

社長 CEO	宮地 康弘
副社長 COO	栗波 孝昌
執行役員 副社長	岡 慶一
執行役員 CFO	草薙 仁
執行役員	安藤 昌明
執行役員	西村 誠司
執行役員	田中 潔
執行役員	渡邉 高夫
執行役員	樫村 剛
執行役員	安達 亮一
執行役員	前田 惠造
執行役員	長原 巨樹

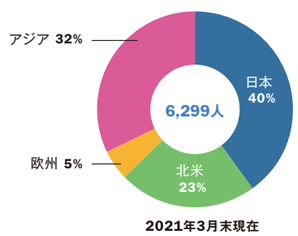
売上高比率・社員数比率

地域別売上高比率



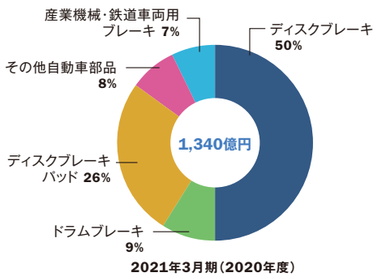
2021年3月期（2020年度）

地域別社員数比率



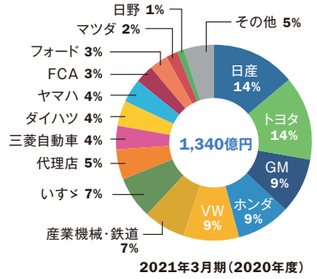
2021年3月末現在

製品別売上高比率



2021年3月期（2020年度）

お客様別売上高比率



2021年3月期（2020年度）

沿革

1929年	曙石綿工業所を創業、 ウーブンブレーキライニング、クラッチフェーシングの製造開始
1936年	曙石綿工業（株）を設立
1939年	羽生製造所建設、稼働開始
1960年	曙ブレーキ工業（株）に改称 米国ベンディックス社とブレーキに関する技術援助契約を締結
1961年	東京証券取引所市場第二部に上場
1962年	岩槻製造所建設、稼働開始（現 曙ブレーキ岩槻製造（株））
1965年	晝田工業（株）、三菱重工業（株）と共同出資で 山陽ブレーキ工業（株）を設立（現 曙ブレーキ山陽製造（株））
1971年	福島製造所建設、稼働開始（現 曙ブレーキ福島製造（株））
1979年	岩槻製造所、AD型ディスクブレーキの量産を開始
1982年	AD型ディスクブレーキ「昭和56年度日本機械学会賞」受賞
1983年	東京証券取引所市場第一部に上場
1986年	米国GM社との合弁会社 Ambrake Corporation を設立 （現 Akebono Brake, Elizabethtown Plant）
1988年	テストコース「曙ブレーキ・プルービング・グラウンド」完成 （福島県いわき市）（現 Ai-Ring）
1992年	曙ブレーキ山形製造（株）を設立
1994年	米国現地法人 Amak Brake L.L.C. を設立 （現:Akebono Brake, Glasgow Plant）
1996年	インドネシア PT. Tri Dharma Wisesa に資本参加 （現 PT. Akebono Brake Astra Indonesia）
1998年	米国現地法人 Akebono Corporation（North America）を設立 （現 Akebono Brake Corporation）
2001年	本社新社屋「Akebono Crystal Wing（ACW）」竣工
2003年	あけぼの123（株）を設立
2004年	ドイツ現地法人 Akebono Europe GmbH を設立 ブレーキ博物館「Ai-Museum」完成 中国現地法人 広州曙光制動器有限公司、曙光制動器（蘇州）有限公司を設立
2006年	タイ現地法人 Akebono Brake (Thailand) Co., Ltd. を設立
2007年	F1に新規参戦、マクラーレンチームのオフィシャルサプライヤーになる
2008年	館林鋳造所稼働開始
2011年	ベトナム現地法人 Akebono Brake Astra Vietnam Co., Ltd. を設立
2012年	メキシコ現地法人 Akebono Brake Mexico S.A. de C.V. を設立
2014年	スロバキア現地法人 Akebono Brake Slovakia s.r.o. を設立 タイに（株）真岡製作所との合弁会社 A&M Casting (Thailand) Co., Ltd.を設立
2016年	「市販ロードカー用高性能自動車ブレーキの開発と量産化」において 「日本機械学会賞（技術）」を受賞
2018年	（株）アケボノキッズケアを設立し、あけぼの保育園（Ai-Kids）を開園
2019年	タイ現地法人 Akebono Cooperation (Thailand) Co., Ltd. を設立 事業再生ADR手続を経て、新経営体制へ移行